

介護職員自己評価表

平成30年6月14日

事業所名	小規模多機能型居宅介護 小規模多機能前之浜
------	-----------------------

	正社員	非常勤社員
介護支援専門員	1人	2人
社会福祉士	1人	
介護福祉士	7人	8人
実務者研修修了者	1人	
准看護師	1人	

※複数資格者含む

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	備考
前回の課題に関する改善	36.4%	2.3%	53.4%	6.8%	

前回の改善計画	生活歴・病歴・障害など十分に把握し支援を提供する必要があるが、職員間で認知症支援に違いがあり教育の機会を設ける必要があった。なかでも、適切な援助を超えた、いわゆる、世話をし過ぎる傾向が課題であった。これに対して、自尊心を維持しながら自立性を高めるための一貫性のある支援に繋がる教育が必要であった。そのため、関わる職員で適切な支援内容を検討する機会を計画した。また、認知ケアの質的統一を図るためにOJTを強化する計画とした。一方、二次三次評価に比べ自己評価が大幅に低い介護職員に面談をおこない自信に繋がる指導が必要であった。
前回の改善計画に対する取組み結果	認知症ケアについて個人差がみられることから、月に一回スキルアップ勉強会を計画し、それぞれの職員が強化したい支援や手技を挙げてもらい勉強会をおこなった。認知症ケアと緩和ケアについての知見の必要性を感じていたことから、参加者がそれぞれ自由な意見や発想が出るようにBS法を用い「認知症ケアとは」「緩和ケアとは」という課題について思い思いに意見を出し合ってもらった。結果、BPSDに関する考察から、職員自身の不適切なケアそのものが負の連鎖を呼び起こし、新たなBPSDに結びつくことが確認することができた。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目(偏差値)		よくできている(60以上)	なんとかできている(50~59)	あまりできていない(40~49)	ほとんどできていない(39以下)	合計
SECTION 1	対象者の接し方や態度について	37.5%	0.0%	50.0%	12.5%	100%
SECTION 2	仕事上の態度について	28.6%	0.0%	57.1%	14.3%	100%
SECTION 3	食事について	37.5%	0.0%	62.5%	0.0%	100%
SECTION 4	移乗や移動について	37.5%	0.0%	62.5%	0.0%	100%
SECTION 5	排泄について	37.5%	0.0%	50.0%	12.5%	100%
SECTION 6	入浴について	37.5%	0.0%	50.0%	12.5%	100%
SECTION 7	着替えや整容について	37.5%	0.0%	62.5%	0.0%	100%
SECTION 8	服薬について	37.5%	12.5%	37.5%	12.5%	100%
SECTION 9	意思疎通について	37.5%	0.0%	62.5%	0.0%	100%
SECTION 10	行動障害について	37.5%	12.5%	37.5%	12.5%	100%
SECTION 11	普通の生活やアクティビティについて	37.5%	0.0%	62.5%	0.0%	100%

自己評価及び改善が必要な事項	業務のなかに取り入れた高頻度のOJTとBS法を用いた勉強会は、不適切なケアが内包する負の連鎖とBPSDに関する影響について学ぶ機会となった。あわせて、福祉系大学の新卒者が2名入職されたこともあわさり、特に認知症ケアについて基礎から見直す良機となった。現在は得た知識や理解などを支援に繋げている段階である。PDCAを機能させ評価し再実践することは、すなわち、情報共有の場を創りあげることであった。このことが、自由な意見や発想が出る話しやすい環境に繋がったと考えている。また、頻りに面談するなど接触機会を増やしたことで、二次三次評価に比べ自己評価が大幅に低い介護職員に関して面談する機会を増やしたことで自発性を示す職員もみられた。しかし、大きな変化がみられない介護職員もみられたことから、自信を持って支援に取り組んで頂くため、職員との関わり方を再検討する必要があった。
	管理者 谷 哲秀

外部評価者	小規模多機能型居宅介護は、喜入圏域内で暮らす要介護者の様態や希望に応じて「通い」「訪問」「泊まり」および多様なニーズに対応するサービスを提供することで、住み慣れた地域で生活が継続できるように支援する役割があります。そのことは、生活圏域内の多様な支援を要する方々に対して地域包括ケアの担い手になることに繋がります。急な「泊まり」ニーズに対して即日対応するなど、地域に密着した支援を積極的に手掛けていることが推察できました。二次三次評価に比べ自己評価が大幅に低い介護職員がみられたことに、面談を通じて業務内外の悩みを聞き取るなど、深い関係性があることが伺えました。一方、自己評価が大幅に低い介護職員のなかには意識改善がみられない職員もみられました。面談を個別におこなうなど至った背景について詳細に聞き取る必要があります。自信に繋がる指導の必要性は十分理解されているようですので職員との関わり方を検討してください。総合的な評価としては、地域に密着したラポールが十分に図られた支援がなされていることが推察できました。緊急性のあるニーズに積極的に支援しておられるなど、今後の活動が期待できる事業所です。これからも地域に根ざした事業所として頑張ってください。
	〒891-0141 鹿児島市谷山中央6丁目 特定非営利活動法人かごしま福祉開発研究所 社会福祉学博士 岩崎 房子